

令和4年度 第2回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 令和5年3月14日（火） 午後2時30分～午後4時

【場 所】 豊田市役所 南51会議室

【出席者】 (委員) 菊池 秀夫 (中京大学 スポーツ科学部 教授)《会長》
粕谷 浩二 ((公財)豊田市スポーツ協会 常務理事)《副会長》
安藤 貴通 (公募委員)
岩月 幸雄 (豊田市健康づくり協議会 会長)
梅村 郁仁 ((株)名古屋グランパスエイト 広報コミュニケーション部 部長)
芝田 みゆ (公募委員)
清水 弥生 ((一社)豊田市身障協会 副会長)
谷山 由香利 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)
塚本 誠 ((株)豊田スタジアム 専務取締役)
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)
仁村 保郎 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長)
平吹 洋子 (愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長)
藤田 幸則 (トヨタ自動車(株)スポーツ強化・地域貢献部 地域貢献グループ長)
築瀬 歩 (地域スポーツクラブ会議 委員)

【欠席者】 無し

【事務局】 南 良明 (生涯活躍部部長)
都築 保裕 (スポーツ振興課課長) 太田 信人 (スポーツ振興課副課長)
阿垣 一大 (スポーツ振興課担当長) 安川 佳孝 (スポーツ振興課担当長)
宇佐美 雅也 (スポーツ振興課主査) 中村 見弥 (スポーツ振興課主事)

【傍聴人】 なし

【次 第】 1 会長あいさつ
2 生涯活躍部あいさつ
3 議題
(1) 市民スポーツ調査について
(2) 障がい者スポーツ推進について
4 報告
(1) 中学校部活動の地域移行について
(2) WRC報告
5 その他

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（１）市民スポーツ調査について

事務局：資料に基づき、市民スポーツ調査について説明

会 長：事務局から市民スポーツ調査について説明があった。こちらについてご意見、ご質問があればお願いしたい。

委 員：楽しむスポーツについて。トヨタ自動車のわがまちアスリートの認知度を見て寂しいと思った。豊田市に来て、豊田スタジアム、スカイホール豊田、豊田市運動公園に来る人は同じ人が利用しているのではないかと感じた。スポーツを見に行くきっかけが何か、市そしてトヨタ自動車に何を求めているのかを皆様に聞きたい。

会 長：チームそのものは認知度があると思うが、わがまちアスリートの認知度の普及は難しい面があるのではないか。

委 員：するスポーツについて。「運動・スポーツを日頃行っている人の方が、健康状態が良い傾向にある。」とあるが、これが果たして因果関係があるのかを知りたい。というのは、運動・スポーツを行っていない理由を見ると、「年をとったため」、「体が弱い」、「コロナ禍であったため」という理由は、健康状態に不安があるからスポーツをしていないという可能性もあると思う。スポーツをやったから必ずしも健康状態が高まったという結果にはならない気がする。こちらについては因果関係調べてみる必要があると思う。

事務局：確かに原因と結果が一方向かどうかというのはこの結果からは分からない。因果関係があるだけということがいえる程度なのかもしれない。結果をまとめる際には活用させていただきたいと思う。

会 長：相関関係があるというレベルと言える。

委 員：支えるスポーツの分野で、単純集計の資料 3 ページ問 13「スポーツを支える活動に参加しなかったのはどのような理由からですか」のところについて、「報酬が少ない（ない）ため」という回答はほとんどされていない。それから「仕事・家事・育児・勉強等が忙しいため」という回答を穿った見方をすると、スポーツを支える意欲・意識が高い人は報酬関係無しにも支えていくのではないか。健康づくり協議会では、今一番重要になっているのが高齢者の健康維持のための体操である。そこは女性の方が対応することが多い状況である。そのような状況の中、対応する女性はほとんど職を持っており、活動に参加する際は休みを調整して取り、支えている。無償に近いような形で行っているが、報酬が少ないということがこの調査結果には出てきていない。結局、活動していない人がどのように考えていくかというのが、あまりこのようなアンケートでは出にくいことではないと思う。後の課題にもあるが、中学校のクラブ活動を地域で支えていくとなると、人材をいかに集めるかについては報酬という部分は避けては通れないと思う。

会 長：確かにボランティアといっても今はボランティアをされる方もする方もそれなりに互酬性がある良いのではないかと思う。実費程度の報酬を積極的に考えていくことも必要だと思う。支える活動についてのクロス集計はさらに踏み込んで分析する余地はあるのか。

事務局：基本的にこの単純集計結果に出ているものというのは、物理的というよりは技術的

に集計は可能である。どのような組み合わせで行うとこのクロス集計の意味があるのかということ踏まえた上で集計していくのが良いと思う。そのような観点で意見があればお願いしたい。

会 長：クロス集計の基本は属性であると思う。例えば年齢、職業など。その辺りから何か見いだせるのではないかと感じている。

委 員：単純集計結果を見ると、この選択肢だと指導に携わった人よりも運営側の方が答えていることが多いと思う。先ほどの委員がおっしゃった、その地域で中高年の方に体操指導されるような方が「携わった」と1番に回答したかと思うと、この選択肢ではそのように答えないのでと疑問を持った。支えるという活動の中でお世話する、レッスンする、指導する、インストラクションするということが回答者に認識されていない可能性もあった。

委 員：6,000人の市民から無作為抽出ということだが、年齢や性別等に分けて集計するとまた違った結果が出ると思う。また、そこから見えてくる今後のやり方の答えも変わってくると思う。築瀬委員のおっしゃったように、無作為というのは今後のやり方が見通しにくいアンケートだったのではないかという気がする。

委 員：わがまちアスリートの認知度の広め方について思ったことは、20代までの人は恐らく自分の母校の先輩などが活躍したという情報を得ると、そのような選手がいたんだ、もっといろんな選手がいるんだと認識し、わがまちアスリートの認知度が広まっていくと思う。選手が大会等で活躍したらその選手の母校等へ情報共有し、生徒に広めるのはどうか。

会 長：実際のわがまちアスリートの母校への情報展開はどうか。

委 員：わがまちアスリートの場合、トヨタ自動車に所属している人は多いが、豊田市出身の人が少ない。

会 長：チームであれば露出はあるが、個人であると豊田市にルーツがない場合には情報を展開するのは難しいと思う。

委 員：スポーツの現地観戦について、スカイホール豊田、豊田スタジアムでも国際的な試合や国内のトップリーグであるBリーグ、Vリーグ、今週末にはWリーグが開催される。コロナ禍も明けつつ、入場制限も今はほとんどなくなっているなか、PRの仕方にも問題があるかもしれないが、観客が戻ってきていないと感じる。観客が戻ってきていない理由として、先ほどテレビ観戦やスポーツチャンネル等が充実してきているからなどがあがったと説明があったが、やはり生で試合を見るとその感動は大きく、子供や小中学生に体験・体感していただくと多くの人に広がり非常に良いと思う。また、このアンケートからその点に対する対策が出ると良いと思っている。アンケートは4年に1度ということやってきたが、今回は2年後に行った。今後はどのようにアンケートを行うか決まっていたら教えていただきたい。また、コロナ禍の影響をどのように分析していくかというのは1つ課題だと思うので、そのあたりが決まっていれば教えていただきたい。

事務局：教育に関するアンケートについては4年に1度、今後も実施されていくという状況。私どもとしてはその4年の間を埋めるということで今回は2年後のスポーツの部分を取り出したアンケートを実施した。また2年後には、次の教育に関するアンケー

トを実施するという状況ではあるので、恐らく2年後はその教育に関するアンケートを活用させていただくということを想定している。今後についてはやり方や設問の組み方等も含め、随時相談させていただきながら実施したいと思っている。委員からもお話があったとおり、コロナ前の状況に戻ってきつつある中でのアンケートの実施だったので、次回、例えばその2年後のアンケートを今回のアンケートと比較した際に、コロナ禍の影響がどの程度出るのかというところは実施してみないと分からない。コロナ禍を意識していくかどうかは状況をみながらと考えている。

会 長：2年に1度なり定期的にデータをとることは非常に重要だと思う。活動の把握などは例えば全国的な調査などと比較できるような形で、質問用紙を作ることができないかと思う。その点についてはどうか。

事務局：そういうことができると大変有益だと思う。具体的にこういった項目があると良いなどご意見があればいただきたい。

会 長：活動の把握という点では違うが、例えば、笹川スポーツ財団のスポーツライフデータやスポーツ庁が実施しているような調査はどうか。完全に一緒にするというのはなかなか難しいが、ある指標についてはそのような全国的な調査と比較できるような形にしておくというのも1つの考え方だと思う。

事務局：参考にさせていただく。

■ 議題（2）障がい者スポーツ推進について

事務局：資料に基づき、障がい者スポーツ推進について説明

会 長：事務局から障がい者スポーツ推進について説明があった。こちらについてご意見、ご質問があればお願いしたい。

委 員：他の自治体と比べるとかなりパラアスリートを取り上げている頻度が高く、パラスポーツに対して認知度を広める活動をしておられるということに関して大変敬意を表したい。その一方で、先ほどのスポーツ活動に関する基礎調査の単純集計を見ると、健康、体力作り、楽しみ、気晴らし、運動不足解消、仲間との触れ合い、このような目的でスポーツをしたい人が多いにもかかわらず、パラスポーツだけというのがおかしい。もっとユニバーサルスポーツを広めていかないといけない。ユニバーサルスポーツに対する取組みの状況が何も報告されていないというのが少し残念。ユニバーサルスポーツ、アダプテッドスポーツ+（プラス）パラスポーツ、トップのパラスポーツに繋がっていくと思うので、障害をお持ちの方も身近なスポーツから始め、できる人はパラスポーツへ徐々に上がっていくということを想定すると、例えば子供でも、特別支援学校と一般の学校の子供たちが交流しながら同じところで同じ種目を楽しむなんていう機会を作れば特別支援学校の子たちももっとスポーツをやりたいなと思うかもしれないし、ユニバーサルという概念をもう少し強調していただけると嬉しい。

委 員：ほとんどの子供たちへの授業や講義がトップアスリートに頼っているところが多いと思う。現在、豊田市身障協会では小学校3～4校に対し、障がい者が授業を行っている。その授業の中では障がい者と健常者のバリアが取れる。健常者である子供たちと障がい者である大人との会話がスポーツを通じることにより、理解

し合える。授業や講義を行う人がトップアスリートである必要はないと思う。そのような子供たちやあるいは健常者との接触の機会を多くすることにより、障がい者も共生できる社会になり、もっと外に出ていこうと思う人が増え、医療費も抑制されるかもしれない。そういう意味でトップアスリートだけにこだわるのではなく、一般の障がい者が子供たちと交流することの方が大事なような気がする。

委員：本当に多くの色々な活動をされていることを改めて認識した。夢の教室や、委員がおっしゃったトップスポーツについては、トップレベルの方ではなくても是非というところは子供たちとの触れ合いは重要なところであるので今後も推進していくべきだと思う。また、このような方がいる、このような大会があるという情報をもう少し告知した方が良いと思っている。ツイッターのアカウントを拝見しても、せっかく投稿はされているのに「いいね」等のエンゲージメントがかなり低いと思った。SNSの利点を活かし、広がりのある関係性を作り、投稿を広げていくというところに繋げていけると良いと感じた。

委員：障がい者同士がスポーツをする環境は無償ボランティアあるいは指導者の少なさもあり、当事者家族が応援するほどの小さいコミュニティになってしまう。そのような中で障がい者スポーツあるいはスポーツ行政、そして福祉関係者の3者が連携し応援していただくと障がいを持っている方々でもスポーツをする機会がもっともっと増えると思う。障がい者スポーツに光が当たりにくいのが、たまたま東京パラリンピックのときはボッチャが結構目立った。その影響もあり、現在ではボッチャだけが脳性麻痺の方たちのスポーツになっている。競技されているときの選手の顔は生きがいを持たれているという感じがしてとても素晴らしく思える。ボッチャ以外のスポーツにもある程度のルールを緩和することにより、健常者と一緒にできるのではないかと思う。

委員：現在、地域スポーツクラブは12ある。スポーツクラブのイベントには障がいを持った方も参加している。例えば、スポーツクラブの中には、人工股関節の方がグラウンドゴルフ教室や転倒予防体操教室に参加されていて、できる範囲で一緒に行っている。あとは梅坪・浄水スポーツクラブは少し頭を使うモルックを導入され、地域スポーツクラブでは受け入れる受け皿の体制を作っているがまだそれが認知されていないことが少し残念であった。障がい者の方にここまで手を差し伸べ、ここから自身でやっていただくというノウハウのガイドラインみたいなのをスポーツクラブにいただけるとありがたいと感じている。

会長：これまでの障がい者団体とのかかわりはどうか。

委員：団体とスポーツクラブ会議が直接まだお目にかかりお話するっていうことはしていない。スポーツクラブでもクラブによっては受け入れ方が随分違い、シルバーさんと同じ年会費にしてハートフル会員という方に入っているが、安全性を考えると自信が持てないからという理由で受け入れられないスポーツクラブも実際にはある。まだそのあたりは一律にはなっていない。

会長：それぞれのところでうまくやっていくということは非常に重要である。

委員：愛知県では来年度からのスポーツ推進計画が作られており、先日答申があったが、障がい者スポーツの推進が謳われている。計画の中では、愛知県社会福祉協議会

と連携する予定になっている。委員が福祉行政との関連についておっしゃっていたが、市も気軽に障がい者がスポーツに取り組むことができる機会の提供を謳っているので、豊田市社会福祉協議会の意見も聞いてみるのも一考かなと思うのでよろしくお願ひしたい。

委員：障がい者専用のスポーツ施設がほとんどない。全人口に占める障がい者の割合は7.4%、それに対しスポーツ施設は0.07%とほとんど無い状態。特に、豊田市は障がい者専用のスポーツ施設が全く無い。名古屋市に障がい者スポーツセンターがあり、障がい者のための道具が全部揃っており、指導員もいる。そのようなスポーツ施設が豊田市にもできるといいと思い、市議会議員に相談をかけるとやはり利用者が少ないから作れないということであった。例えば、スカイホール豊田の中の一角にでも、あるいは障がい者専用でなくても良いので何か使える方法を考えていただけるとありがたい。

会長：既存施設を上手く利用する、そういう手だてがあってもいいと感じる。

委員：障がい者にとってそれは贅沢なものではなくて、必要なもの。市としてあるいは県として助成してあげることにより、その方たちの人生の生きがいになり、バリアを取り除いてあげられると思う。助成ばかりで豊田市も大変だと思うが、無くなったものの一部を補助してあげるっていうのは当たり前のような気もしないでもない。

委員：我々もアスリートに対して用具開発をしているが、通常の手椅子は補助金が下りるが、スポーツ用のものとなると一切下りない。更に需要も少ないということでスポーツ用は大変高価で、それをトヨタ自動車所属の佐藤圭太選手は何とか安く作ろうと取り組んでいる。佐藤圭太選手を通じ多くの子供たちを見てきたが、普通の義足では走れないが、スポーツ用の義足を履いたことで生きがいを感じて小学校の体育と一緒に走れるようになった子どもを見させてもらい、感動するようなものが多くあった。やはりスポーツをするってことで失われたものが取り戻され、彼らの苦しいところで頑張った成果が今ここにあると思っている。彼らはこれまで支えてもらったことを恩返ししたいと思っている。是非、彼らのこれまでの生き様や頑張っている姿を見ていただけたらと思っている。

委員：トップアスリートと子供たちの教室も素晴らしいと思った。ボッチャに特化してしまいが、ボッチャは比較的取り組みやすいスポーツではあると思うので、各学校で1度取り組んでみてはどうかと思った。しかし、ボッチャは比較的高価なものでもあるので、重さなどを考えると粘土や新聞紙等で簡単にボッチャのボールを作り、子供たち自身が実際取り組むと、障がい者スポーツへの興味も全体的に湧いてくると思う。

会長：幅広く学校などでトライできるような工夫をしていくということである。

■報告（１）中学校部活動の地域移行について

事務局：資料に基づき、中学校部活動の地域移行について説明

会長：今の報告について何かご質問・ご意見あればお願いしたい。

委員：中学校部活動の地域移行は教員の働き方改革から始まったと思うが、こちらは教員の兼業兼職もあるのか。お伺いしたいのですが。

委員：全員が全て希望するものが出来るということではなく、その地域に住んでいる方で、地域指導者として兼職兼業を希望した場合出来る。ただし、勤務体制において、例えば、月の勤務時間がオーバーしているような教員ができるということではなく、管理職である校長が管理する場合において兼職兼業のスタイルという形で今のところ進んでいる。働き方改革からという意見もあったが、この間のシンポジウムでもあったように、あくまでもこれは地域づくりの柱でもあるので、教員の働き方と合わせて皆で地域を作っていくというところもある。シンポジウムを受け、来年度４月から一斉に中学校長会で動き出すというスタイルになっている。そこでモデル校の取組みが終わるが、足並みを揃えて進んでいくという形となり、今のような兼職兼業の話も一斉に教職員に流れる。もちろん地域に住んでいる小学校の教員も、それが出来るということでもある。

委員：教員の希望は全て叶うわけではないのか。兼業になった際は時間外労働になるのか。

委員：全て叶ってしまうと働き方と地域指導が大変なことになるので、そちらについては慎重に来年度４月からスタートする。時間外の在校時間が月８０時間をオーバーしない中で働けている方があくまでも兼職兼業を希望した場合、校長が許可できる。

■報告（２）WRC報告

事務局：資料に基づき、WRC報告について説明

会長：今の報告について何かご質問・ご意見あればお願いしたい。

委員：１０年程前に鈴鹿市は幼児対象のストライダーを幼稚園保育園に貸し出し、交通安全教室を行っていた。そのような車を使ったスポーツの子ども版を啓発していくと面白いなと思った。

事務局：昨年の産業フェスタにて、豊田商工会議所の青年部が三輪車を足で蹴って進んでいくような乗り物を使ったイベントを行っていた。今いただいた意見も参考にして取り組んでいきたい。

委員：豊田スタジアムの剥がした芝生はどうするのか。

事務局：これからの調整になる。過去に剥がした芝を豊田市マレットゴルフ協会が使用した事例はある。一般的に剥がした芝をまた競技場に戻すということは難しい。その他の利用方法も含めて検討する。

委員：芝生の活用ができれば良いと思う。

以上